

フレスコ画

永遠の絵画

漆喰の壁に彩色する画法がフレスコ画(湿式画法、真正フレスコ)です。通常、顔料を定着させるためには糊材を使いますが、フレスコ画は水しか使いません。漆喰を塗った直後の壁に水で溶いた顔料を塗ると、水はやがて蒸発しますが、顔料は染み込んだまま残ります。漆喰の原料である消石灰(水酸化カルシウム)は、空気中の炭酸ガスを吸って石灰石(炭酸カルシウム)に変化する性質を持っているため、顔料を含んだまま壁は硬化します。この化学反応を応用したのがフレスコ画です。

よい状態で制作されたものは約1カ月で硬化が始まり、1年経つと表面が硬化しますが、硬化が完全に終わるには100年かかるといわれています。硬化した石灰岩は大理石と同じ組成です。フレスコ画が「天然の色大理石のように美しく堅牢だ」と評されるのは誇張ではありません。ある人は「石の中に閉じ込めた顔料による永遠の絵画」と呼びますが、まさにその通りです。

フレスコ画を描く

フレスコ画に挑戦してみましよう。壁に描くのは大変なので、パネル(F6)を使ったミニフレスコ画の描き方を紹介します。用意するものはパネル(F6)、石灰、砂、軽量カップ(180ml)、洗面器、コテ、筆、顔料、パケツ、パレットです。

1. 石灰モルタル(漆喰)づくり

洗面器に軽量カップ2杯ずつの砂と石灰を入れてよくかき混ぜます。混ぜ終わったら、軽量カップ半分の水を加えてコテで練ります。さらに、軽量カップ半分の水を徐々に加えながら練り込んでいきます。手で触ってみて、団子ができるくらい硬さになったらモルタルの完成です。

2. 下塗り

新聞紙を敷きパネルを平面に据えます。水を含ませたタワシでパネルを2回濡らせます(2回目は5分後)。その上にコテを使ってモルタルを塗っていきます。周辺から塗っていきます。厚く塗らず、薄くのぼしながら全体に平均して塗るようにします。塗り終わったら5〜10分間置いて、コテなどで縦横に櫛目を入れます。終わったら最低1日乾かします。

3. 上塗り

下塗りした面をもう一度水で濡らせ、その上に下塗りと同じ要領でモルタルを塗ります。櫛目は入れません。モルタルに手をあて、石灰の白がついてこないくらいの状態になったら描き始めます。

4. 描画

パレットで顔料を水に溶きます。描き始めはモルタルが柔らかいので、柔らかな筆を使ってゆつくり、丁寧に描いていきます。同じところばかり描きつづけないで、全体的に色を置いていくようにします。しばらくすると、色がぐんぐん吸い込まれる感じになってきます。画面が猛烈に水を欲しがっていますので、時々パケツと水を振りかけると良いでしょう。混色や塗り重ねは自由です。顔料と水の吸い込みが悪くなり始めたら、描き終えるようにします。描いていられる時間は5〜6時間です。

フレスコ画の技法

実際に描いてみればわかりますが、フレスコ画は漆喰が湿っている間に描き上げなければなりません。そのため、画家は一日ごとに塗り継ぎによって描き進めます。この技法をジョルナータ(伊語で「一日分」と呼びます。フレスコ画で最も有名な作品のひとつは、ミケランジェロがステイナ礼拝堂に描いた「最後の審判」です。彼は弟子を使わず、壁塗りから描写までひとりで行っていました。漆喰の状態はその日の温度、湿度、さらに季節に応じて変わってきます。顔料は乾くと明るい色調になりますが、塗ったときは暗く沈んだ色調です。1日に描けるのは1㎡に満たない一部分に過ぎません。乾くと描き直しはできません。ミケランジェロはジョルナータに全精神を集中させ、常に全体をイメージしながら、部分部分をジグソーパズルのピースのように完璧に仕上げて、「最後の審判」を完成させたのです。

フレスコ画はミケランジェロ以降下火になっていきました。持ち運びのできる新しい絵画(油絵)が出現したこともあり、フレスコ画に費やされる膨大な精神力と体力、硬化するための悠久の時間を、画家とパトロンと社会が敬遠したのかもかもしれません。

※参考資料:パレット「ホルベイン専門家用顔料とその素材」



■ホルベイン専門家用顔料

※石灰は強いアルカリ性を持っているため、フレスコ画にはアルカリに弱い顔料は使えません。ホルベインの顔料ラベルには耐アルカリの有無が記されています。

※本文で紹介した「フレスコ画の描き方」は初歩です。詳しくは専門書をご覧ください。

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729(85)1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)



ホルベイン絵具